

演題

直接ビリルビンがマイナス値を示した IgM- 型 M-蛋白血症の 1 例

県立日南病院臨床検査科

黒木祥子 鞍津輪優子 藤原愛

【はじめに】M-蛋白は異常単クローン性蛋白であり、これらは種々の検査値に影響を及ぼすことが知られている。今回、直接ビリルビン(D-Bil)がマイナス値を示した M-蛋白例を経験したので報告する。

【症例】67 歳、男性。電気泳動で 位に M-Band を認め、IgM- 型 M-蛋白と診断された。 型 Bence Jones 蛋白は (+) であった。

【方法】患者検体を用い、1,タイムコース異常の確認、2,normal 血清との混合試験、3,混濁の確認、4,他法による測定、5,濃度希釈による測定をおこなった。

【結果】患者血清と R1 試薬との間で何らかの異常な反応を認めた。

【考察】今回、患者検体で様々な項目のタイムコースを確認した結果、異常反応を示す項目を D-Bil 以外にも認めた。それらの試薬は R1 試薬が酸性であった。患者血清中の M-蛋白が酸性条件下で構造変化したため異常反応したと考えられた。